

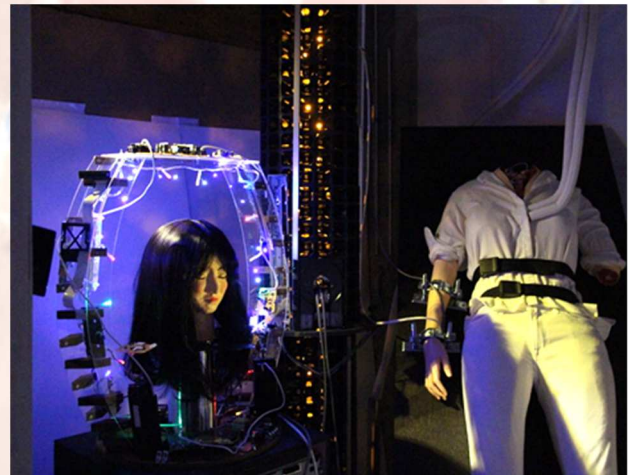
創ることと壊すこと



創造スタッフの仕事はその名の通り色々なものを創ることでしょう。この仕事を始めて、さまざまなものを作りました。イベントの館内装飾、衣装、舞台美術、ワークショップ、展覧会…その創造活動のなかで、自分が特に意識していたのは「壊すこと」です。

壊すことは創ることと真逆なようで実はそうではありません。例えば白い紙に絵を描くとします。絵の具で何かを描いていく時、なんでも描ける真っ白な紙の機能は壊されていきます。そもそも紙も植物を壊して創られています。何かを創る時、同時に、背景に、破壊がついて回るのです。壊すことは創ることの一部なのです。

これは、単に物理的なものだけの話ではありません。例えばスマートフォン。これが普及し、私たちの生活スタイルは大きく変わりました。言い換えれば今までの生活スタイルは壊されていきました。これは創造が既存の社会を壊したわかりやすい例でしょう。もっと小さな単位でも創造と破壊は見られます。例えばあなたが映画か何かを見て感動したとします。その感動はあなたの暗い気持ちや壊したり、それまでの考え方を壊したり、もしかしたらそれまでの生き方も壊してしまうかもしれません。



『変異人類博覧会』(2019)より蘇生死者のブース(部分)

このような破壊は悪いことではありません。かと、言って必ずしも良いことでもないでしょう。もしかしたら誰かを傷つけるかもしれないし、社会問題を引き起こすかもしれない。

しかし**創造の裏には必ず破壊があります。そしてその破壊が実は創造の役割でもあるのです。**もちろんただ壊せば良いというものではありません。壊した先の世界を良くするために既存の概念に疑問を抱き時に破壊するのです。そのためには自分が壊すもの、創造の裏にある、壊すという行為をしっかりと見定め、何をどう壊しどう生まれ変わらせるか考えるべきでしょう。

そうして創られたものはもしかしたら多くの人に評価されるものではないかもしれません。万人が求める答えでもないかもしれません。摩擦を生むことはある意味、未熟とも言えるでしょう。それでも自分が良いと思うものは勇気と責任を持って発信していきたい。先人、経験者や、鑑賞者の教えや助力をいただきながら新しいものを生み出すために、**私は壊すことに挑戦していきたいと思います。それが私にとっての創造の仕事なのですから。**